

新しい生活文化を発信する

アム

主な記事

2~3面 普段の備えがあなたを守る

4面 立川・この人/第3回たちかわ男女平等フォーラム
シンポジウム報告/アム・インフォメーション/
編集委員紹介

発行/立川市女性総合センター
(生活安全課・男女平等参画課)
企画・編集/市民編集委員
(〒190-0012)立川市曙町2-36-2
☎042-528-6801 FAX042-528-6805
e-mail seikatsuanzen@city.tachikawa.lg.jp
danjoubyoudou@city.tachikawa.lg.jp

9/25 NO.28

2011(平成23)年
年2回(9月・3月)発行



防災 センズも みがぐ!

3月11日、あなたはどこで何をしていましたか? マグニチュード9を記録した東日本大震災は、地震の怖さ津波の怖さを見せつけました。そして東電福島第1原発事故による放射能汚染は、今も続いています。もし、立川近辺で同規模の地震が起きたら……。

私たちの住む立川市は海岸線から遠く、津波被害は考えられません。が、阪神淡路大震災で起きたような都市型災害、たとえば密集家屋の倒壊や火事が起きるとみられています。いつ起きるか分からない地震。自分や家族の命を守るためには、ひとりひとりが防災センスをみがき、日頃から災害に備えておく以外に手はありません。さあ、あなたも防災センスをみがきましょう。

「3月11日の大震災で あなたが感じたことは？」

小さい子どもを抱えた保護者 109人に聞きました。

「子育て中のパパ・ママへの防災講座」参加者の声から

- 震源地が東京だったら…と考えると、とても恐ろしくなりました。実際に経験してみないとわからない事だらけだと思うので、できれば小さい子どもをお持ちの親(震災を体験した)からお話を聞いてみたいと思いました。
- 家で赤ちゃんを抱っこして、なにも落ちてこないところへ行って泣いていました。2人子どもがいるので、とっさのときにどのように守ろうか本当に心配です。
- 家族間での連絡方法。避難場所を確認していなかったため連絡がくるまで、心配だった。
- 実際に当日はなにをしていいのかわからず、おさまるまで座り込んでしまいました。もし、避難所生活をする事になったらと思ったら、とても不安でした。
- 当日よりもその後が大変だった。子どもをかかえて、子どもを守るということで心配が多くなった。両親は遠方だし、夫の勤務先は遠いし、とても不安。

「子育てひろば」利用者の声から

- とてもこわかった。とても不安な中、停電になり何にも情報が得られなかった。根拠もなく安全、安全とくりかえして、何を信じていいのかわからなくなった。
- いつ災害が来るのか分からないので、こわいなあ~と感じた。パニックにならずに冷静に対応し、判断できるか不安。
- 停電情報も早い段階で、市のホームページにアップされていたので混乱は少なかった。物流の回復も早く被災地の事を思えば、特に不便と感じる事はなかった。
- 今までに経験したことのない災害で自分に何が出来るのかわからなかった。近所付き合いが少なくなった現代、もう少し近所付き合いを大切にする必要があると感じた。
- 子どもに影響が大きかったため母として、子どもにすべきことは何かと考えた。

3・11 ママたちの声

市内2カ所の保育園利用者の声から

- 真っ先に子どもの安否が心配だったが、園と連絡が取れなかったのが困った。会社から徒歩で帰る道を知っておく必要があると感じた。
- 携帯が通じないときの連絡方法を決めておくこと。非常時の備えをしておくことなどが必要だと感じた。
- 母親は都心勤め(立川から30km超)のため、帰宅難民になった。職場に宿泊せざるを得ず、子どもの事が心配だった。また、水の買いだめ、計画停電による店の営業時間の短縮は日常生活に大きな影響があった。
- 両親共に帰宅の交通手段がなくなり帰宅時間が遅くなってしまいました。その間、学校のお友だちのお母さんが子どもを預かってくれ、いざという時の「地域力」のありがたさを感じました。普段から地域ともしっかりつながりを持たないといけないと感じました。
- 親が勤務中に災害がおこると、すぐに(何日も)帰れないことが予想されるので、その間の子どものことが心配だと思いました。保育園は今回ずっと(保護者のお迎えがくるまで)守ってくれたので頼もしく思いました。
- 携帯電話は役に立たず、家族との連絡がとれない事がとても不安でした(災害用ダイヤルは話し中でつながらなかった)。家だけではなく、家族各々が日中過ごす場所の避難所を知っておかないとダメだと思いました。原発の事を知らなすぎて、平和ボケしている自分に反省しました。
- 保育園が木造平屋なので、耐震工事の後でよかったと思っている。放射能の情報は信用できると思うが心配である。
- とても恐かった。上の2人は園に居たので急いで迎えに行ったが、その時1人で3人守れるか不安だった。日頃から子どもだけで、逃げ出せるように教えるようになった。
- 家族の安否がすごく不安でした。日常当たり前にある連絡手段が使えないので、本当に顔を見た後は、ホッとしたせい体調不良に。
- 2人である時(子どもと)たぶん身一つで逃げることはできない気がします。

子育て広場は小学校入学前の子どもと保護者の自由な場です。
【問合せ先 子ども家庭支援センター係 042-523-2111】

私たちの 3・11

■自宅で夫の介護をしているHさん

14年前、夫が脳こうそくで倒れ、寝たきりになりました。現在は家で介護をしています。昨年の秋に自然呼吸から酸素生成器による呼吸に変えました。また、タンが詰まって気が休まる時がなかったため、4、5年前に気管と食道を分離して永久気管孔にしました。栄養は胃ろうです。3月11日の地震の時は、私は近所の友人（82歳と78歳）と食事をしていました。友人たちと揺れが収まるのを待って、大急ぎで家に帰りました。幸い落下物もほとんどなく、夫も無事でした。計画停電には携帯用の酸素ボンベ、蓄電機能付きの吸引器で対処するつもりでした。ただ、私たちは避難所生活は無理です。その時は家で工夫しながら過ごすつもりです。

■車いす生活のUさん

3月11日は自宅マンションにいて、それほど揺れなかったのですが、玄関のドアを開けて、出口を確保しました。困ったのは携帯で連絡ができなくなったこととマンションのエレベーターが止まったこと。エレベーターが止まると車椅子では下に降りられなくなります。エレベーターは翌日復旧したのですが、その後も計画停電のたびに止まりました。交通機関も乱れていたため、ゴールデンウィーク明けまで外出は控えていました。介助者がいる時はよいのですが、自宅で一人の時に地震が来たら、避難できないのではと不安です。皆さん自分のことで精いっぱいでしょうし、近所も高齢者が多く当てにできません。救助が後回しになり、孤立してしまうのではと不安なのです。



普段の備えがあなたを守る!



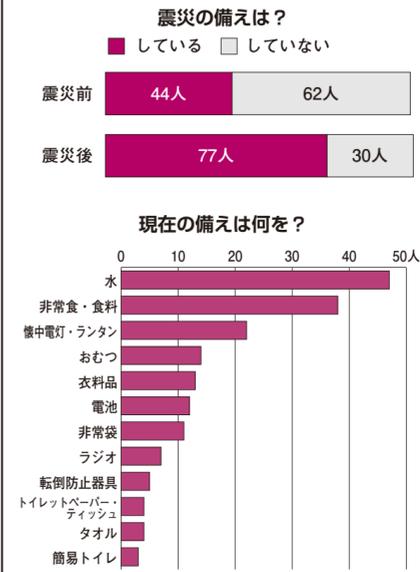
地震が起きたら、まず何をしたらいいの？ 室内が安全？ それとも外？ など意外に知らないことばかり。この機会に災害が起きた時の注意点や普段の備え、災害時の立川市の対応など、知りたい事をまとめて、市防災課の栗原防災課長にお聞きしてみました。

3・11の立川の震度は4、帰宅困難者26000人が出ました

3月11日の大震災時、立川の震度は4でした。市の職員も15分後には、市内の被害状況点検に、部署ごとにパトロールに出っていました。市内の被害としては立川駅北口のビルと市民会館の窓ガラスが割れたり、マンション1件、一戸建て住宅1件の壁に亀裂が入るなどの損壊がありました。幸い大きな被害はなく、水・電気・ガスのライフラインも無事でした。しかし当初より固定電話、携帯電話が通じにくくなる、JR・私鉄が運転を中止するという問題が起きました。本当初めての体験でした。我々も同様です。交通機関の運休により、帰宅困難者が

わが家でまずできる「備え」は??

個人ができる地震への「備え」として重要なのは家の耐震化です。わが家の耐震性を確認して、必要なら補強しておくことが最大の「備え」になります。昭和56年6月以前の家屋であれば、市から補助も出ますし、家全体では費用がかさむというのなら、寝室だけでも耐震化しておけば、かなり安心です。ぜひ取り組んでほしいと思います。また、寝室に倒れる家具な



どの置かないのが鉄則です。要は、命の確保が一番大事ということですね。そう。身の安全が確保されなかったら、備蓄品も役に立ちません。立川市でも防災倉庫に食料・毛布・生活用品など用意されています(右)「防災倉庫見学記」参照、食料などは避難者総定数47000人で消費すると、1日分の量です。家庭でも水・食料3日分ぐら

い備蓄をお願いします。そうしていただくと、市全体の防災力自体も高まることになり。またカセットコンロやガスボンベもあると、火が使って便利。あとはそれぞれ生活に照らし合わせて、必要な品目を、切らさないようにしておくことだと思います。常用の薬など、非常時に手元にないと不安です。災害時の対応など普段から医師と相談なさるといいです。

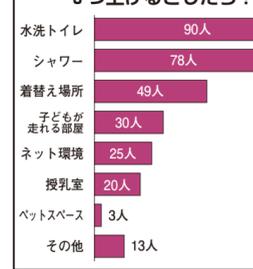
首都直下型地震発生の可能性は今後30年に70%

今後30年の間に、首都直下型地震が起きる確率は70%とされています。きわめて高い確率です。しかもそれが明日起きるのか、30年後に起きるのか分らないところにさらに難しさがあります。報道では立川断層が活発化したと言われていますが、立川断層は、もともとの地震発生確率が今後30年で0.5%と評価されていますが、3・11の地震の影響により、数字が高くなった可能性があり、とされています。市では国の防災基本計画、都の地域防災計画と整合を図り、防災計画を策定しています。計画の想定地震のマグニチュードは7(震度6弱)。

自分の避難所がどこか知っていますか?



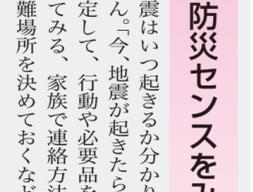
避難所でほしい設備を3つ上げるとしたら?



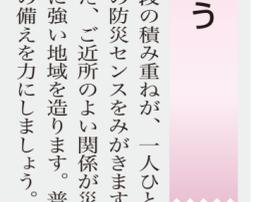
災害時、小中学校や公共施設39カ所が立川市の避難所となります。残念ながら避難所が開設されるような時は、ライフライン(水・電気・ガス)が寸断されていることが多く、水洗トイレやシャワーなど快適な設備は望まれません。もし家屋が倒壊した場合は、住居が確保できず避難所で生活するようになりますが、あくまでも避難所は臨時的な場です。高齢者、子ども、

障害を持つ人などさまざまな方が利用されます。譲り合ってできるだけ気持ちよく、過ごせるようにしていただけたらと思います。簡易トイレなど家庭で用意しておく役割も重要です。いいですね。市でも、持病をお持ちの方や障害者など支援が必要な方には、規模の小さい2次避難所を設置するなど、できる範囲で対応していきたいと考えています。

放射能汚染を心配していますか?



今、飲用水はどのようにしていますか?



福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は、とりわけ保護者から心配する声が多く寄せられました。そこで市でも、市内の学校や保育施設を中心に6月27日より市独自の放射線測定を始めています。(結果は市のHPで公表)

また、金町浄水場で放射線測定値が高かった時、姉妹市の長野県大町市から天然水のボトル詰めを送ってもらい、市内の幼稚園、保育園でいざという時のための飲用水として使用できるように配布しました。

地震はいつ起きるか分かりませんが、今地震が起きたらと想定して、行動や必要用品を考えてみる、家族で連絡方法や避難場所を決めておくなど

避難所で快適は無理

地震が発生したら、何よりもまず、身の安全をはかることです。外出時、自宅にいる時、それぞれ対処のしかたが違うので、日頃からそうした不測の事態の対処のしかたを考えてみる、体験談を聴く、防災講座や自治会の防災訓練などに参加するなど、いろいろな方法であなたの防災力を高めて、

地震発生時はまず身の安全の確保

とつぎに身を守る行動がとれるように思います。その上で一般論としてですが、次のようなことが言えます。①阪神・淡路大震災では1階がつぶれたケースが多く、2階の方が安全②ガスの火を使っていたら火を消す。タイミングとしては揺れ始めか揺れが収まった時に消火

まわりに相談できる人はいますか?



当日、家族と連絡が取れないと不安ですが、予め災害が起きた場合の連絡方法を決めておくことが大切です。また今回の震災でも公衆電話が比較的つながりました。子ども達の下校は当日の状況を見ながら、教育委員会が引き渡し等の指示をします。

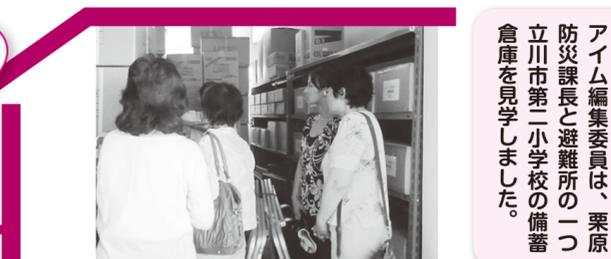
「近所で「顔の見える関係」を

近年、ご近所のお付き合いがあまり親密とは言えない状況があります。2010年の国勢調査によると、国民の30.2%、3人に1人が65歳以上という現状。いざという時困ります。

阪神淡路大震災の時、救助を必要とした35000人のうち、28000人が家族や近隣者に助けられたと報告されています。いざという時は一刻を争うこともあり、ご近所、ご近所の力はとても大きいのです。

③家から避難する時は、停電が解消された時ショートして火災になるのを防ぐため、ブレーカーを落とす④市街地では落下物が多いので、新しく大きな建物の中に一時避難することが安全。

3・11の大活躍!!



校舎二階の一室がその備蓄倉庫です。中にはアルファ米、おかゆ缶、乾パンなど食料4440食と、カーペット、ローソク・簡易トイレ・大小紙おむつ・生理用品ピン・石鹸等々の生活必需品の段ボール箱が山積みです。自家発電機も一台ありました。非常用の飲料水は、学校の貯水槽に20トンの水があり利用するのですが、定期的に水質検査をし、常時安全を確認している水だそう。学校の門扉の鍵は参集職員が持っていますが、校舎の鍵は教職員しか所持していないため、鍵の問題は教育委員会と現在も調整中だそうです。

アイム編集委員は、栗原防災課長と避難所の一つ立川市第二小学校の備蓄倉庫を見学しました。

防災倉庫見学記

この印刷物は再生紙を使用しています

立川・このひと

立川で、病児・病後児保育を預って14年



みやた小児科 (幸町)
院長 宮田 章子さん
<http://www.miyata.or.jp/index.html>

●病児・病後児保育を始めたきっかけは？

勤務医の頃、子どもが病気の時も休めず、苦勞している同僚の女性医師を見て、大変だなと思つたのがきっかけです。もちろん手術が入つていたら、その医師は休めませんが、裁判官などもそうですが、仕事には他の人に代わつてもらえない仕事というのがありません。また普通の仕事であつても、休めない日がありますし、休めば当然ですが、周りに迷

惑をかけてしまいます。しかも通常の保育園は病児の対応ができないので、祖母や知り合いに頼るしか方法がありませんでした。それなら自分が病院を開業してから、病児・病後児を預かる施設を作ろうと思つていました。

20年前に開業した時にいろいろ調べてみると、大阪で父母たちがお金を出し合つて運営している病児保育所があり、「ああ先人がいるんだ」と思いました。平成9年に病

児保育を始めた時には、東京で3か所目でした。

●保育内容は？

二人の保育士を中心に、4〜5人のお子さんを預かつて、一日安静に過ごさせています。安静といつても子どももです。から、熱があつても本人もつらい時はおとなしく寝ています。熱が下がると、寝てくれません。本読みやお絵かきなど静かな遊びをするようにし

●子どもの元気は家族や地域の元気から

れば看護に入ります。●「病児・病後児保育」はなかなか広まらないようですが、潜在的なニーズは高く、常に待機者がいます。個人的には立川にもう一ヶ所あると良いと思つますが、たとえば感染症の病児を預かると、その日は多くの子を預かれないなど、経営面では綱渡り状態が普通です。

●「今後やりたい事は？」
病児保育も最初は仕事を持つ母親の支援を目的として始めましたが、今は子どもそのものを支援する事業と位置づけ、母親の就業の有無に関わらず、また、市外者利用であっても受け入れていきます。というのは、子どもをめぐる問題が、時代とともに変わつてきたと感じたからです。

●20年で母親と子どもに変化はありましたか？

本当に大きく変わりました。まずお母さんですが、自分が納得できるまで、ちゃんと聞いて帰りたいという人が増えました。乳幼児と接触した経験がない親が圧倒的になり、応用がきかず、不安も強くなつてい

るとも言えるでしょう。一方、子どもは、コミュニケーションの取り方に困難がある発達障害の子が多くなりました。(全体の7%)原因は不明です。またアレルギーの子も増えていきます。住環境が清潔になりすぎて免疫がなくなつたためと言われています。

これからも、社会に欠けているものを見つけてそれを埋める仕事、たとえば障害児の往診とかお子さんと保護者の心理相談とか、今までになかった選択肢を提供して、そのことで子どもを囲む家庭と地域が元気になるような「伴走者」であり続けたいと思つています。

アイム インフォメーション

お問い合わせは、女性総合センターへ
☎042-528-6801

男女平等参画課の事業 10月～3月

10月から平成24年3月までの男女平等参画課主催の事業をご紹介します。事業の実施時期、内容の詳細については、広報たちかわやチラシをご覧ください(表中㊦)=市民企画活動事業)。

日程	タイトル・概要 企画・運営・共催	広報掲載
10/7, 11/18, 12/16, 2/23 (全4回) 13:00～15:00	㊦文章講座「2011想いをみつめる、発信する」 企画・運営/チームいま好き (アイム登録団体)	9/10号
11/18, 21, 22, 24, 25, 28, 29, 30, 12/1, 2 (全10日間) 14:00～16:00	☆事務系職種・再就職への近道～女性再就職サポートプログラム～☆ 秘書業務コース 事務系職種・再就職に有利な、秘書業務の基礎知識を学びます。共催：東京しごとセンター多摩	9/10号
11/1㊦～11/7㊦	DV (ドメスティック・バイオレンス) 根絶パネル展	9/25号
11/3㊦ 14:00～15:00	DV防止人形劇～尊重されていますか？あなたの気持ち	9/25号
11/5㊦ 10:00～12:00	DV防止講演会～人権の大切さを伝える言葉・表現	9/25号
11/19㊦ 13:30～15:30	㊦思春期の健康講座～からだと心を大切に生きて～ 企画・運営/Body and Soul	10/10号
11/26㊦ 13:30～16:00	㊦災害時および、その後の生活の中で、女性・子どもなどの心と身体を守るための講座 企画・運営/アエネ (アイム登録団体)	10/10号
1/24, 31, 2/7㊦ 10:00～12:00	エンパワーメント講座	12/10号
1月㊦予定 13:30～16:30	女性のための護身術「WEN-DO (ウェンドー)」	12/25号

情報紙「アイム (No.28)」の企画・編集
〔市民編集委員〕鈴木洋子/武江俊江
S・K/百戸智美
〔助言者〕原 和美
〔カット〕玉井公子 〔敬称略〕
次号 (No.29) は
平成24年3月10日発行予定です。

絆 第3回たちかわ男女平等フォーラム 地域でともに生きる 世代をこえて

6月14日(火)～26日(日)まで、女性総合センターアイムにおいて、第3回たちかわ男女平等フォーラムが開かれました。今年のテーマは「絆」。期間中は1階ギャラリーで参加市民団体による展示、1階ホールおよび5階学習室で講演会や映画の上映会、公演など、市民団体の企画が実施され、延べ1778人が参加しました。

その中で25日に行われたシンポジウム「『絆』～地域でともに生きる 世代をこえて～」取材しました。シンポジウムはフォーラムのメイン企画、実行委員が話し合いを重ね練り上げてきたものとのこと。第1部は「女性の主張」、女性たち5名が絆についての体験や考えを発表。ご近所さんとお茶会や血縁関係以外の絆など、さまざまな絆のあり方が語られ、興味深く耳を傾けました。第2部はパネルディスカッション。パネリストは佐藤良子さん (大山自治会) 山中ゆう子さん (子育て・

第3回たちかわ男女平等フォーラム シンポジウム

いれかわりたちかわり実行委員会) 井村良英さん (NPO法人「育て上げネット」地域担当部長)の三人。大山団地自治会長の佐藤さんは、今回の震災で被災した福島県の住人60世帯を団地で受け入れ、すぐに生活ができるように、学校、医療機関への連絡、当座の食糧や衣料品の調達を様々な団体にFAXや電話で依頼しました。「日頃の絆が新しい絆に繋がった」と話されました。



子育て支援の活動をする山中さんは、「私たちの活動はすぐに結果の見えるものではありませんが、子どもとのつながりを大切にしていきたいし、大人たちも大切にしてほしい」と訴えました。「引きこもり」と言われる若者たちの就労支援をする井村さんは、なぜ立川で活動するかについて、「自分の力だけでは育ちきることのできない若者たちに、立川の商店街や農家の人たちは温かく支援してくれる。懐の深さが、立川にはある」と立川市民としてはうれしいお話。三者三様の報告でしたが、人と人が作る絆の力を実感しました。この場の出会いから、パネリストたちの活動を結ぶ話が持ち上がっていると報告があり、会場から大きな拍手が湧きました。「絆」と言っても、人それぞれ。感じ方もさまざま。でもそのことが社会の柔軟性や多様性に繋がっていると感じたシンポジウムでした。

